

# 花壇植え付け10年

宇治支援学校生、道路沿い一角

ベゴニアやジニア苗 丁寧に

宇治市広野町の府立宇治支援学校高等部の生徒が、同市宇治の宇治番交差点近くにある花壇の植え付けを行った。今年で10年目の取り組みで、ピンクやオレンジなど色とりどりの花で道路沿いの一角が一気に華やかだ。花壇は同市福祉サービス公社が管理する市有地で、愛称は「ほっぽガーデン」。府道宇治淀線など交通量が多い道路に囲まれた三角



雨が降る中、道路沿いの花壇に花苗を植える  
宇治支援学校の生徒たち(宇治市宇治)

地帯にある。同校高等部の生徒は、地域との交流を深める狙いで2014年から花壇の一部の整備に携わっている。今年はいくらし職業コースの1年10人が担当した。生徒たちは花壇の草を抜いたり、石を取り除いたりしてきれいに整地した後、ベゴニアやジニアなど7種類約80本の苗を植えた。雨が降る中、かっぱ姿で作業し、丁寧に苗に土をかぶせていった。中川優梨さん(15)は「花がきれいに見えるように並べるのが難しかった。元気に育って、たくさんの人に見てほしい」と笑顔で話した。(本好治央)